

P2-A-0735**心臓血管外科術後、敗血症を呈した患者へのリハビリテーション介入の長期経過について
長期的生命予後の検討に向けて**榊 聡子¹⁾, 浦島 恭子²⁾, 安達 晃一²⁾¹⁾IMS (イムス) グループ 春日部中央総合病院 リハビリテーション科,²⁾IMS (イムス) グループ 春日部中央総合病院 心臓血管外科**key words 敗血症・ICUAW・予後****【はじめに】**

心臓血管外科術後敗血症により術後患者の生命予後が著しく低下する。また生存したとしても、認知機能や身体機能の低下により長期予後に影響を与えるとも言われている。近年 ICU の重症患者管理中に四肢麻痺が生じる、ICU-acquired weakness(以下 ICUAW) を合併すると言われているが、敗血症患者に発症しやすいと言われている。ICUAW の予防の為、早期からのリハビリテーション(以下リハ)が必要と言われているが、リハ介入についての中期・長期的な報告は殆どない。今回敗血症を呈した症例を術後早期より介入し、術前レベルまで回復し、1年経過を追った症例を経験した。本症例を通して敗血症患者の中期から長期の介入の重要性を報告する。

【症例】

対象は平成 24 年に当院心臓血管外科において術後敗血症性ショックを呈した患者 5 名の内、死亡を除き、予後調査が可能であった 1 名を調査した。

症例：58 歳、男性、入院前 BMI26, FIM126 点。大動脈解離 StanfordA 型のため、緊急で上行大動脈置換術を施行されたが、術後 8 日目に MRSA 敗血症を発症した。術後 1 日目 C 反応性蛋白 6.1mg/dl, WBC17000 μ l, Alb3.9g/dl, 人工呼吸器管理下にてリハ介入施行。体位ドレナージと軽負荷レジスタンストレーニングを開始。術後 8 日目に敗血症発症, C 反応性蛋白 23.91mg/dl, WBC27300, Alb2.3g/dl, リハは体位ドレナージ中心に介入。頭部 CT 上問題はないが、上肢 MMT3, 下肢 MMT1 レベルであった。術後 23 日目に敗血症が軽快した。C 反応性蛋白 12mg/dl, WBC9600, Alb1.8g/dl, リハはレジスタンストレーニング, 端坐位訓練を施行した。栄養は経鼻栄養(1200Kcal)を術後 15 日目より開始。術後 18 日目に人工呼吸器抜管。術後 19 日目に ICU 退室し、一般病棟に転棟。術後 2 か月目より食事摂取開始(1800kcal 目標に設定)。C 反応性蛋白 2.26mg/dl, Alb3g/dl, レジスタンストレーニング, 歩行訓練を中心に介入。その後 ADL 訓練や歩行訓練を重ね、屋外杖歩行を獲得し、術後 363 日目に退院となった。術後 2 年目の現在まで再入院なく経過できている。下肢筋力はアニマ社製 μ -TAS にて評価。膝伸展筋力の推移は(術後 5 か月目：右/左 9/6kg, 術後 7 か月目：16/13kg, 10 か月目：21/15kg), BMI は(術後 5 か月目 22.7 か月目 20, 退院時 22)。FIM は入院前 126 点, 退院時 125 点, 1 年後 126 点であった。

【考察】

症例は術後敗血症性ショックを呈し、人工呼吸器管理と ICU 滞在日数が長期間であった。敗血症や数日間の ICU 滞在などにより約半数に ICUAW を発症し、左右対称性の四肢麻痺を生じると言われている。本症例も頭部 CT 上問題はなかったが、全身の筋力低下が著明であった。特に下肢筋力は早期からリハ介入を行っても ADL に繋がるまで期間を要した。神経学的な精査は行えなかったが、ICUAW を呈していた可能性があった。また敗血症は全身の炎症を呈するため、栄養状態の低下が遷延しやすい。本症例も炎症所見が軽快した後より、Alb が上昇し体重増加、リハの向上につながったと考えられる。ICU AW が長期化すると死亡率を高め、後遺症を残すと言われており、身体機能低下・認知機能低下があることで、長期予後が不良になるという報告もある。本症例においても 316 日リハ介入という長期間のフォローを行い、退院時までに高い身体機能レベルにしたことで、1 年間再入院なく現在も ADL を自立した状態で過ごすことができている。敗血症リハは早期のリハ介入が重要と言われているが、身体機能低下が著しい場合は、長期的な介入が必要と思われる。

【研究意義】

敗血症は身体機能や認知機能低下を起こすと言われている。しかし介入内容や時期についての検討は稀少である。身体機能の低下が予後に影響を与えることも知られているため、本研究は敗血症患者において急性期リハの重要性や長期介入の必要性を調査するデータとなりえると考えられる。